

専門店ならではの展示内容  
「自分で作る、自分で手掛ける」

置田佛具店（札幌市）

置田佛具店の創業は昭和五年。初代置田和乎は明治三十九年富山県福光生まれ。先に渡道し栗山町（夕張郡）にて家具製造を営む兄の下で製造職人となり、年季明け後、札幌の大黒屋魚谷仏具店に職人として入った後、昭和三年、京都の永居栄次郎の下で京仏壇を学

業。

び、昭和五年に札幌にて独立開業。北海道において札幌は小樽と並ぶ金仏壇の産地。札幌には塗り箔・金具などの職人が揃っていた時代であり、和乎は仏壇仏具の木地師として寺院仏具、在家仏壇の製造に励み、平成八年に没するまで南七条西八丁目の東別院前にて営



小型仏壇にも正式な荘厳  
上卓は木地師でもある置田陽一社長の自作

置田陽一社長の後を継ぐのは置田社長の甥御の大野正人氏。大野正人氏は昭和43年生まれで、京都の箔押師浦田氏の下で修業を行い、今では塗り箔に加えて彩色の仕事をし、お寺様の創作仏具も生み出している。置田佛具店の店舗（六条店）は真宗大谷派東別院のそばにあるが、店頭には金仏壇、都市型仏壇、唐木仏壇が並び、店舗奥には伝統的な金仏壇を主



札幌東別院そばの置田佛具店

に展示する。特長的なのは、店頭で東派と西派の正式な仏具荘厳を小型仏壇で行っていること。小型仏壇で、というところが実は凄いい。この大きさの仏壇で上卓で火舎・華瓶までを正式にお飾りしている。実はこの仏壇の上卓は木地師である置田社長ご自身がサイズを合わせて製作したもの。

「うちは大野まで入れて、三代続く職人の家ですから」と置田社長はこともなげに語るが、数多くの取材事例の中でも初めてお聞きするお話だ。

「仏壇は以前は伝統的な唐木仏壇も売っていたのですが、最近では都市型のモダン仏壇が増えまして」とのことだが、都市型仏壇の中で、真宗の木仏を安置展示もしている。「もちろん本山から頂く掛軸が良いのでしょうが、木仏の方が、お客様にはよく伝わります。私のこだわりでもあります」



都市型モダン仏壇でも宗派の荘厳を意識する

す」と置田社長は語る。

前述の小型金仏壇にはもちろん木仏を安置しているが、両脇の親鸞聖人像、蓮如上人像には画讃が置田社長の筆により書かれている。「お寺様の堂内の親鸞聖人、蓮如上人の掛軸と同じ内容にしているだけです」とのことだが、この仕事は全国で唯一のものではないだろうか。位牌の文字書き、過去帳の文字書きも行うので、自店受注以外にも多い。

「自分で作る、自分で手がける」が置田佛具店のモットー。「お客様の目は肥えていますから、心に響く製品を提供しないとけません」と置田社長は語る。

東本願寺は明治維新以降、熱心に北海道での布教を行ってきたが、北海道の宗教土壌を置田佛具店は支えている。

◎札幌市中央区南六条西九丁目東向き TEL 〇一一（五一二）四二六八 FAX 〇一一（五一二）八一六四